

インターバンクの声（2016年8月19日）

わずか2日前まで、多くの市場参加者は米連邦準備制度理事会 (FRB) が9月に利上げする可能性もあるのではと考えていた。しかし、昨日の日本時間未明に発表された7月の連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨の内容から、思っていたほど委員会メンバーが利上げに積極的ではないことが分かると、早期の利上げ観測は一気に後退してしまった。ニューヨーク連銀のダドリー総裁は昨日も9月利上げの可能性に自信を示したようだが、ニューヨーク市場後半でのユーロや円の上昇を見れば、足元の市場が既に委員会メンバーのハト派優勢を認識し始めていることが窺える。ただ、ユーロも円も6月24日の英国の国民投票で欧州連合 (EU) からの離脱が決定した後の相場水準に戻ったものの、極端にスピードのあるドル売りにはなっていないようにも感じられる。米国債券利回りも10年債や30年債については利回りの低下が限定的だ。債券市場ではFRBの姿勢に対して為替市場よりも少し慎重な考えなのかも知れない。米FRBが高官によるリップサービスで巧妙に市場をコントロールしている可能性もあり、あまり当局の姿勢を決め付けないほうが良いかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。